

玉名市地震防災マップ

大きな地震が起きたときに、
どれぐらいの揺れの大きさになるのかを
市民の皆さんに知っていただき、
地震災害に備えていただくために、
玉名市では地震防災マップを作成しました。

地震などの自然災害に対しては、
日頃からの備えがとても重要です。
地震防災マップによりお住まいの地域の状況をご確認いただき、
建物の耐震化や家具の転倒防止対策など、
日頃からの備えにお役立て下さい。

お問い合わせ先

玉名市役所 住宅課

〒865-8501 熊本県玉名市繁根 本163
TEL：0968-75-1311 / FAX：0968-75-1221

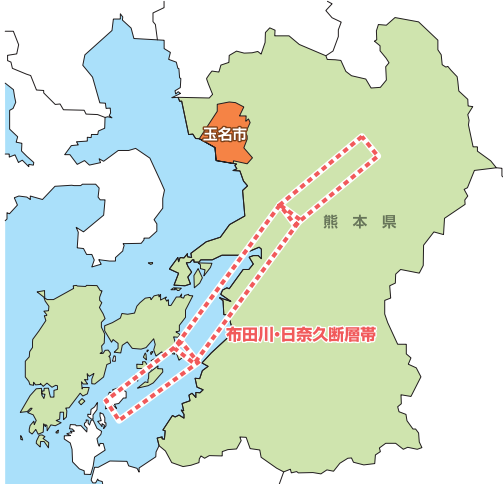
平成28年2月作成

想定した地震

玉名市に大きな被害を及ぼすと考えられる地震として、「**布田川・日奈久断層帯による地震**」と「**全国どこでも起こりうる直下の地震**」の2つの地震が考えられます。

布田川・日奈久断層帯による地震とは

布田川・日奈久断層帯は、熊本県南阿蘇村から芦北町を経て八代海南部まで延びる、長さ約101kmの断層帯です。この断層帯は北東部・中部・西部の3つの区間からなっており、中部と西部の断層が同時に活動した場合、マグニチュード8.0クラスの大きな地震が起きると考えられています。そこで、今回の想定では被害が大きな場合として、布田川・日奈久断層帯の中部と西部の断層が同時に動いた場合を想定しました。



全国どこでも起こりうる直下の地震とは

近年、新潟県中越沖地震など今まで注目されなかった地域で大きな地震が相次いで発生しており、マグニチュード6クラスの地震を発生させる活断層は未だ確認されていないものが多く、どこで地震が発生するかはわからないのが現状です。内閣府の「地震防災マップ作成技術資料」では、マグニチュード6クラスの最大値としてM6.9の地震を「全国どこでも起こりうる直下の地震」と位置づけしており、今回の検討でも玉名市の直下で起きるマグニチュード6.9の地震を想定しました。

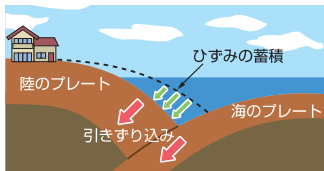
想定した地震が起きたときの揺れの大きさ(震度)を推定すると、震源からの距離やマグニチュードの関係から、玉名市では「**全国どこでも起こりうる直下の地震**」が起きた場合に、最も震度が大きくなることが分かりました。そこで、「**全国どこでも起こりうる直下の地震**」が起きた場合にどれぐらいの揺れの大きさ(震度)になるのかを「**揺れやすさマップ**」として示しています。

地震の起こるしくみ

日本は「陸側のプレート」と「海洋プレート」の境界に位置しており、地震が多く起きる地域です。地震の起こり方は、大きく、「**海溝型地震**」と「**活断層で発生する地震**」の2種類に分けられます。

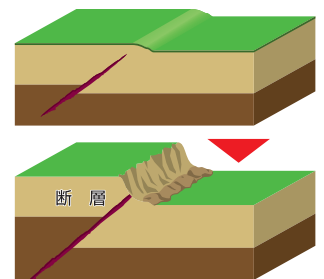
海溝型地震とは

海洋プレートが陸側のプレートの下にもぐり込むときに、陸側のプレートの先端を引きずり込んでいきます。ある限界になると引きずり込まれた先端が元に戻ろうと跳ねて、地震が発生します。



活断層で発生する地震とは

海洋プレートに引きずり込まれることにより、陸側のプレートの内部では押されたり引っ張られたりする力が働き、あちこちでひび割れが生じます。その力に耐えられなくなると、地表から比較的浅い所の岩盤が、割れた面に沿って動くことにより地震が発生します。



震度とマグニチュード

地震のエネルギーの大きさを「**マグニチュード**」と呼び、地震の規模を示すときに用いられます。これに対して、ある場所での揺れの大きさを「**震度**」と呼びます。マグニチュードが大きな地震でも、震源が遠かったり深かったりすると、震度が小さくなります。マグニチュードが1増えると、地震のエネルギーは約32倍になります。したがって、マグニチュード8の地震は、マグニチュード7の地震の約32倍ものエネルギーを持った地震であるといえます。

地震発生時の心構え／行動のポイント

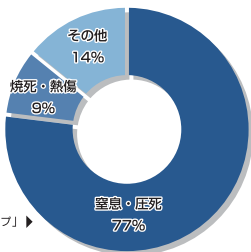
経過時間	ポイント
地震発生	最初の大きな揺れは1分間 ●まず、身を守る机の下などへ。慌てて外へ飛び出さない。 ●すばやく火を消す危険が伴うので無理はしない。 ●脱出口を確保するドア、窓を開ける。
発生1～2分	揺れが収まったらまず火の始末 ●火元を確認する火が出たら落ち着いて初期消火。 ●家族の安全を確保する倒れた家具の下敷きなどでケガをしていないか。 ●靴をはく室内に散乱したガラスの破片などから足を守る。
発生3分	隣近所の安全確認 火災の発生を防ぐ ●隣近所に声をかけるけが人・行方不明者の確認、救出・救護。 ●近所に火が出ていたら初期消火大声で知らせる。消火器を使う。バケツリレーをする(風呂の水をためおきしておく)。 ●余震に注意
発生5分	ラジオなどで正しい情報入手 ●正しい情報をつかむラジオや市役所、自主防災組織の情報を聞く。 ●電話はなるべく使わない緊急連絡電話が優先。安否確認は「災害用伝言ダイヤル171」で。 ●家屋倒壊などの危険があれば避難避難をするときはガスを止め、ブレーカーを落とす。
発生10分	協力して消火 救出・救護活動 ●助け合いの心が大切力を合わせて消火活動、救出・救護活動。 ●水・食料は蓄えているもので3日分の飲料水と食料を備蓄しておく。 ●壊れた家には入らない無理をして、二次災害を起こしてはいけません。 ●災害情報・被害情報の収集引き続き余震に注意。
発生数時間	
発生3日くらい	

耐震診断・改修の重要性

地震による死亡・ケガの原因は？

阪神・淡路大震災での死者のうちの約8割は、地震直後の家具・建物による圧死といわれています。

皆さんの生命や財産を守るためには、住宅・建築物の耐震化が極めて重要です。



阪神・淡路大震災の死に原因
出典：内閣府「関門市地震防災マップ」

被災した建物例



耐震性の判断には建築の専門知識が要求されます。目立った症例が無くても、耐震診断を受けることが重要です。

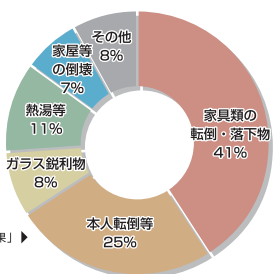
●次のような項目に心当たりがある住宅は、特に要注意です。

- ① ドアあるいは窓を閉めたとき、柱と家具との間に著しい縦長の三角形の隙間があいている。
- ① ドアあるいは窓の付け根が悪く、建具の開閉が変形のために思うようにいかない。
- ① 窓の敷居が著しく水平を欠いている。
- ① 建物の壁面が傾斜しているのが、座っていても感じられる。
- ① シロアリの成虫(4枚羽根のついたシロアリ)が浴室から飛び出す。
- ① 屋根の棟あるいは軒先が波打っている。
- ① モルタル塗壁に長い斜めのひび割れが入っている。

今すぐできる、地震対策

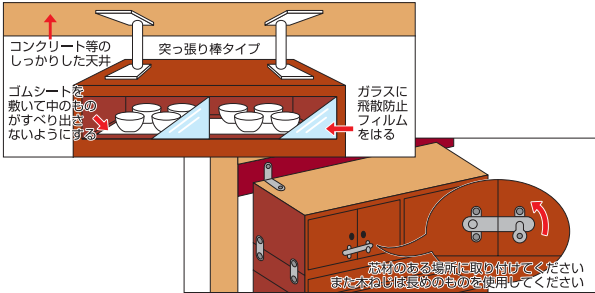
家の中の安全性の向上を図る

地震で建物が倒壊しなくても、大きな家具の転倒、家電製品の落下、ガラスの飛散などにより大きなケガをしたり逃げ道をふさがれたりします。
新潟県中越地震(平成16年10月)でも、負傷者の約5割は家具類の転倒・落下、ガラスの飛散によるものでした。家具の固定や配置方法の工夫を行い、家の中の安全性を高めておきましょう。

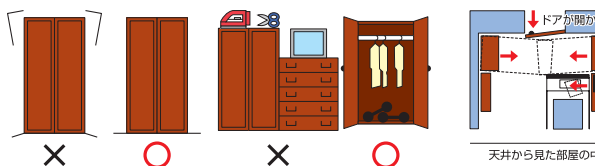


新潟県中越沖地震でのケガの原因
出典：東京消防庁「平成16年(2004年)新潟県中越沖地震による人的被害に関する現地調査結果」

●家具の固定を行いましょう



●家具の正しい置き方を確認しましょう



じゅうたんや壁には、背の高い家具は置かないようにしましょう。これは、じゅうたんや壁など柔らかい床の方が、フローリングなど硬い床よりも転倒しやすいためです。

下に重い物を置き、上に軽い物を収納しましょう。また、家具の上には、ガラスやアイロンのような危険な物やテレビなどの重い物は置かないことが肝要です。

寝室や出入り口付近には、家具を置くのは避けましょう。

災害用伝言ダイヤルのかけかた

無事避難できたら、自分は安全であることを伝言しましょう。

伝言の録音のしかた

171 1 被災者宅の電話番号 1# (録音)9#

伝言の再生のしかた

171 2 被災者宅の電話番号 1# (再生)9#



※災害用伝言ダイヤルは、携帯電話からでもかけることができます。

わが家の防災メモ

持ち出し品チェック

○に✓を入れてチェックしましょう

☐ 懐中電灯 ☐ 携帯型ラジオ ☐ 携帯電話	☐ 飲料水(1人1日3リットル) ☐ 非常食	☐ 医薬品 ☐ ポケットティッシュ ☐ 石鹸・歯ブラシ ☐ マスク	☐ 衣類(肌着類も) ☐ 雨具 ☐ 軍手	☐ 貴重品・現金 ☐ 印鑑 ☐ 免許証 ☐ 保険証 ☐ 現金通帳
---	---	--	---	---

※小銭は公衆電話などに便利です

家族で決めた集合場所	家族で決めた連絡方法	家族で決めた約束事
------------	------------	-----------

家族の連絡先

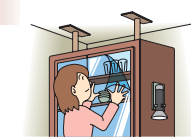
1 名 前	1 名 前
2 連絡先(会社・学校)	2 連絡先(会社・学校)
3 携帯電話番号	3 携帯電話番号
1 名 前	1 名 前
2 連絡先(会社・学校)	2 連絡先(会社・学校)
3 携帯電話番号	3 携帯電話番号
1 名 前	1 名 前
2 連絡先(会社・学校)	2 連絡先(会社・学校)
3 携帯電話番号	3 携帯電話番号

身近にできる地震防災／地震が起こる前の備え

地震防災対策は、他にもこんな備えによって向上させることができます。地震は突然おそってきます。日頃からできる限りの備えをしておくことが大切です。

ケガの防止対策！！

- 避難に備えてスリッパやスニーカーなどを準備しておく
- 停電に備えて懐中電灯をすぐに使える場所に置いておく
- 食器棚や窓ガラスなどには、ガラスの飛散防止措置をしておく



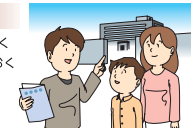
非常用品の準備！！

- 非常用品は、置く場所を決めて準備しておく
- 車載ジャッキやカーラジオなど、身の周りにあるものの活用を考えておく



家族で話し合い！！

- 地震が発生した時の出火防止や初期消火など、家族の役割分担を決めておく
- 家族が離れ離れになった場合の安否確認の方法や集合場所などを決めておく
- 家族で避難場所や避難経路を確認しておく
- 普段のつき合いを大切にするなど、隣近所との協力体制を話し合っておく



地域の危険性の把握！！

- 玉名市の地震防災マップに加えて、わが家の防災マップを作っておく
- 自分の住む地域の地域危険度を確認しておく



過去の地震の教訓の学習！！

- 新聞、テレビ、ラジオやインターネットなどから、防災に関する情報を収集し、知識を身につけておく
- 地域、役所、消防署などが実施する講演会や座談会に参加し、過去の地震の教訓を学んでおく



知識・技術の習得！！

日頃から防災訓練に参加して、身体防護、出火防止、初期消火、救出、応急救護、通報連絡、避難などの方法・手順を身につけておく

